

かんと幼稚園のはじまり

当園は、設置者 粕山ハマが神奈川県より私立幼稚園認可を受け、現理事長 粕山 宣によって昭和41年に設立いたしました。当時の園舎は木造づくりでしたが、園周辺は野畑で広い園庭と一面芝生の自然豊かな環境でした。昭和56年2期鉄骨園舎を増築し、昭和62年4月学校法人粕山学園関東幼稚園に生まれ変わると同時に鉄筋コンクリート造りの新園舎が完成しました。そして、平成18年2月新園舎及び大ホールの完成に至りました。平成元年、初代園長 粕山 宣が園長を退任し理事長に就任、第2代園長 粕山恭子が就任しました。園長は、子どもの「育ち」の重要性を鑑み、幼児教育の実践を通して保育理念を醸成しました。平成31年4月、第3代園長 粕山英人が就任し、さらに豊かな環境づくり、地域に開かれた園を目指しています。

幼児教育で大切にしていること

「子どもが生きる力を育むためにはじりつ(自立と自律)することが必要だ」と前園長はいつも語っていました。その源になっているのは、モンテッソーリ教育です。今も、モンテッソーリ教育の考えに基づいた保育を継続しています。それは、方法論に固執するのではなく「子どもの興味・関心の育みを守る」ことを大事にして、柔軟な姿勢で全教員が子どもにかかわることです。具体的には、子どもの自発性、主体性を信じて、意欲を引き出し、実現することができる体験・経験という環境を教師が用意することによって、実現するものです。私たちは、「子どもにやりたい気持ちを芽生えさせ、ひとりでできるようになるための手助けをする」を目指してかわりをもっていくことだと考え実践を続けていきます。

子どもを成長させる活動のサイクル 「ひとりでできるように手伝って」

子どもがわかる「敏感期」

反抗期？いいえ敏感期です。

- ① 秩序の敏感期 ② 感覚の敏感期
③ 運動の敏感期

さまざまな「敏感期」を吸収する心

- 子どもは自立したがっている
- 子どもに上手に教える
- 脳と体の連携をつくりあげる



学校法人 粕山学園
かんと幼稚園

KANTO KINDER GARTEN

学校法人粕山学園 関東幼稚園

〒246-0035 横浜市瀬谷区下瀬谷2丁目23-34 TEL: 045-301-5924 FAX: 045-303-9165



かんと幼稚園の保育方針 三つの教育

子どもたちには「やりたいという気持ちを芽生えさせ、ひとりでできるようになるために手助けをする。」
このことを感じ取れるように自然な形で関わり合いを持っています。

心の発達を 大切にする教育

文字あそび

単に文字の形を覚えさせるのではなく、文字についてのイメージを広げながら発達段階にそってあそびの中で文字に対する興味を育てます。

身体の発達を 大切にする教育

体育あそび

子どもにとって大切なことは「跳び箱を5段跳べる!」ことではなく、汗をいっぱいかきながら、走る、跳ぶ、投げるなど基本動作を楽しむこと。サーキットあそびを中心に専任講師が指導します。

個々の個性の発達を 大切にする教育

表現あそび

幼児期は感覚器官が著しく発達する時期で、感じとったりズムを体いっぱい表現し生活の中で音楽を楽しめる子どもを育てます。

造形あそび

子どもらしい考えや空想の世界をどんどん広げ表現を工夫しながら最後までやり通すことにより創造力や集中力を育てます。

自由あそび

子どもの成長はすべてあそびの楽しさから。その中でいろいろなことを発見、体得し発展できるように保育者は子どもの世界を広げる手助けをします。

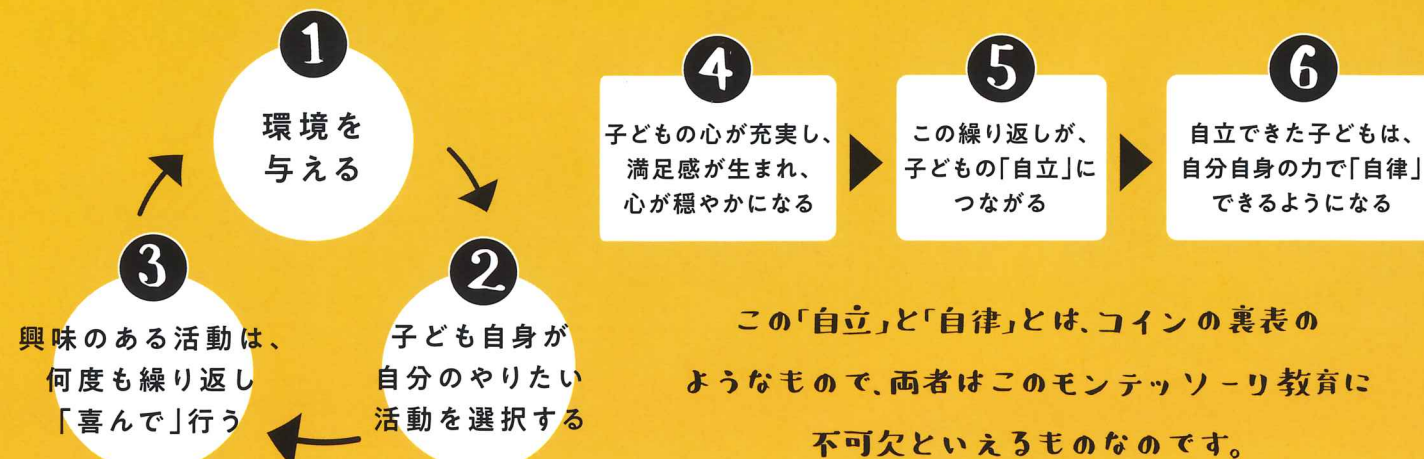
まずは「自分を認識すること」

まずは、自分で何ができるのかをしっかりと認識させてあげることが大切です。これを認識できるようになってきたら、次に友だちとの関わり合いの中でのルールづくり。つまり友だちと仲良く遊ぶために「やって良いこと。悪いこと。守らなくてはいけないこと。我慢することってなに?」などについて一緒に考えながらルールづくりができるように手助けします。



かんと幼稚園の教育 モンテッソーリ理論による教育

『子どもの発達の源、それはその子ども自身の内に持っている伸びようとする力である。』
という考えを基にしています。子ども自身が自分の頭で考え、自分の体(感覚・運動器官)を使い、
自分のやりたいことを自分で追求できる力を養うことを目標としています。



そして「自分を律すること」

次に自分を律することができるためには、自立の力が必要になってきます。自分のやりたいことを実現できる環境の用意はしてありますが、それを実現するには周りとのルールがあります。例えばおもちゃで遊びたいと思っていても、おもちゃが一つしかない場合には待たなくてはなりませんし、教具を使う場合には手を洗って清潔にしてからでないと使ってはいけないという約束があります。それはみんなのものであり、みんなで使うものだからなのです。そのためにも「自立」と「自律」の二つが基礎となる「社会性」を身に付けさせていくことが重要となってきます。教職員一同、地域の皆様のご支援・ご協力をいただきながら、子どもたちが興味・関心を持ち続けることができるように、常日ごろから関わり合いの中で、純粋で素直な子どもたちの心・姿を育み、守っていくことが大切だと考えています。